単校支援地域本部の実践事例

(I) 学校支援地域本部「いじめ対応型」・・・・・・

√ •	平成25年度	「いじめ対	応型」	本部一	- 覧			 -	1 7	`
	◇大津市					•	•	 -	1 8	
	◇彦根市							 2	2 4	
	◇近江八幡市							 3	3 1	
	◇湖南市					•		 3	3 6	
**								 		
)学校:	支援地域本部	「従来型」								4 !
1 4	▶平成25年度	「従来型」	本部一	- 覧					4 5	٠.,
(▶平成25年度 ◇彦根市	「従来型」	本部一	-覧					4 5 4 6	``.
•		「従来型」	本部一	- 覧						
•	◇彦根市	「従来型」	本部一	- 覧					4 6	
•	◇彦根市 ◇近江八幡市	「従来型」	本部一	- 見					4 6 6 3	
•	◇彦根市 ◇近江八幡市 ◇栗東市	「従来型」	本部一	- 寛				 	4 6 6 3 9 5	
•	◇彦根市 ◇近江八幡市 ◇栗東市 ◇湖南市	「従来型」	本部一	- 覧				 1	4 6 6 3 9 5 9 6	
•	◇彦根市 ◇近江八幡市 ◇栗東市 ◇湖南市 ◇東近江市	「従来型」	本部一					 1	4 6 6 3 9 5 9 6 0 4	
	◇彦根市 ◇近江八幡市 ◇栗東市 ◇湖南市 ◇東近江市 ◇米原市	「従来型」	本部一	- 見				 1 1	4 6 6 3 9 5 9 6 0 4 1 5	

17

平成25年度 滋賀県学校支援地域本部一覧(いじめ対応型) 4市17本部

No		市町名		本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
				葛川小学校・地域コーディネート本部	葛川小学校			
	1 大 津 市		真野北小学校・地域コーディネート本部	真野北小学校		4	2	
		_	仰木の里小学校・地域コーディネート本部	仰木の里小学校	0			
'		ф	石山小学校・地域コーディネート本部	石山小学校				
			仰木中学校・地域コーディネート本部	仰木中学校				
			田上中学校・地域コーディネート本部	田上中学校				
	2 彦 根 市			平田小学校				
			中央中学校区支援地域本部	金城小学校				
				中央中学校				
				稲枝東小学校				
					稲枝西小学校			
2		市		稲枝北小学校	4	5	2	
			稲枝中学校区支援地域本部	稲枝東幼稚園				
				みずほ保育園				
				稲枝ふたば保育園				
				ことぶき保育園				
					稲枝中学校			
				桐原小学校支援地域本部	桐原小学校			
3	3 近 江 八 幡 市	江八幡市		安土小学校支援地域本部	安土小学校	0	2	1
			八幡中学校支援地域本部	八幡中学校				
			岩根小学校支援地域本部	岩根小学校				
	4 湖 南			菩提寺北小学校支援地域本部	菩提寺北小学校		6	0
4		*	南 市	菩提寺小学校支援地域本部	菩提寺小学校	0		
4		IŦΙ		水戸小学校支援地域本部	水戸小学校	U		
				石部南小学校支援地域本部	石部南小学校			
				石部小学校支援地域本部	石部小学校			
				合 計		4	17	5
					26			

『葛川の宝』を学校とつなぎ豊かな心と学びの充実を目指す 【大津市】

【いじめ対応型】

1【事業の概要、特色】

本校に在籍する児童数は少ないため、 子どもたちの人間関係は固定されがち である。学校と地域が一体となり、地域 の特徴を活かし、豊かな自然や地域の 々とのふれ合いを大切にする取組を通 して、自分の大切さとともに、他の 大切さに気付き、いじめをしない雰囲気 の醸成につなげたい。

〈工夫した点〉

①地域コーディネーターだより「かけは し」の発行

地域の協力を得て取り組んだ活動や 学習の様子や感想などをまとめ、学区内 の全戸に配布した。地域から「学校や子 どもたちの様子がよくわかってうれし い」というお言葉をもらった。

②お礼の手紙で感謝を届ける

地域の方々にお世話になった学習活動の後に、子どもたちがお礼と感想を綴った手紙を届けて感謝の気持ちを伝え、今後のつなぎになるように心がけた。

③今後につなげる「活動の記録」

次年度の参考とするため、活動や学習 の記録を残していった。

(学年・日時・ねらい・連絡先・事前事後連絡・内容・所感・子どもの変容等)

〈他 校 の参 考となる点 〉

① 学校林活動

木を育てることを通して、木の恵みや人と木の関わりを学び、環境保全と豊かな心を育むことをねらいとして、苗木を植え・育て・世話をする学校林活動に継続的に取り組んでいる。地元の森林組合の支援を得た。

春:雪おこし 夏:下草刈り

秋:補植等



■ 学 校 林 活 動 で 苗 木 を 植 え る

② ゲストティーチャーに学ぶ

* 1 ・ 2 年「まちたんけん」

地域の建物や自然を案内してもらったり、昔の話を聞いたりして、まちの様子を知る。

* 3 · 4 年「花折トンネルをつくる」 地域の発展に尽くした人々の努力 や苦労を知る。

【 葛川 小学校・地域コーディネート本部 】

* 5 年「川や森林と人々のかかわり」 「筏流し」や川の守り神である「し こぶちさん」の昔話から自然と人との

関わりを学ぶ。

*5・6年「戦争体験談」 戦争の体験談を話してもらい、戦時 中の生活や苦労について学ぶ。

*6年「夢プロジェクト」

さまざまな職業についておられる 地域の方々から、仕事や夢について語 ってもらい、自分の将来に夢をもつ。

- ③お年寄りとふれあい、匠の技に学ぶ
 - ・さつまいも苗植え(1・2年)
 - ・グランドゴルフ大会 (全校)
 - わらぞうり作り (3~6年)
 - ・もちつき大会(全校)



■わらぞうり作り

- ④ 学校と地域が一緒に行う行事等
 - 運動会・紅葉祭(文化祭)
 - ・スクールガードの活動
 - 地域清掃
 - 学校協力者会議

2【事業の成果】

- ①「匠の技に学ぶ」学習では、地域の方の技術の素晴らしさを目の当たりにし、子どもたちの心に響く学習を実施することできた。
- ② 少人数の学区であるため、地域の方は我が子や孫のように接してくださる。活動を重ねていくごとに、人と人とのあたたかい関わり合いやふれあいが感じられるようになってきた。
- ③ ゲストティーチャーへの依頼や連絡 ・調整を地域コーディネーターが担当することにより、教員が子どもにかかわる 時間を増やし、よりきめ細かな生活指導 等に生かすことができた。

3【今後の課題】

学区の人口が少ないため人材は限られており、また地域柄、学校からの依頼に対して、遠慮をされる場合も多い。人材を確保するために、丁寧に信頼関係を築いていく必要がある。

またゲストティーチャーが一部の方に偏らないように、幅広く依頼していく必要がある。

1【事業の概要、特色】

(1)地域の特徴と事業のねらい

真野北小学区は、京阪神のベッドタウンとして造成された新興住宅地であるが、新しい町づくりの意識が高く、学校の教育活動に協力的である。

豊かな才能・技術をもつ地域の方々に協力いただき、学校教育の様々な場面で教育活動の充実を図るとともに、地域の活性化にもつなげたいと考えた。

(2) いじめ対応の視点から

地域の人材や第三者の立場の人が、教育活動に関わることによって、より多くの目が行き届くようになり、人間関係の変化に気付き、孤立している子どもやいじめの早期発見ができるようにする。

(3) 実施した教育支援活動の例

① 本の読み聞かせ

毎週火曜日8時30分~45分に、読み聞かせボランティア「たんぽぽ」の方に読み聞かせをしていただいており、子どもたちも楽しみにしている。

②ミニ防犯教室

1 学期終業式 (7 月 19 日) の後、スク ールガードや青パトあんしん隊などの

方犯て子安めき(を教いど全るた) を変たも意こ。 の高で



③ 夏祭り

地域行事の夏祭りに多くの子どもた ちが参加している。

④米作りに挑戦 (第5学年)

JA 堅田中央支店の方に、農業指導に来ていただき、田植えから稲刈りまでお世話になった。

⑤ 弟子入り体験 (第3学年)

苔玉づくりや手芸、コマまわしなど、様々な特技をもった地域の方を師匠として弟子入り体験した。

⑥お店たんけん(第2学年)

生活科の授業で、お店たんけんを行った。地域の事業所に協力いただき、子ど

もにこどが をしまるとって がてイと材 をしますで をしまがた。



【真野北小学校・地域コーディネート本部】

⑦町づくり・講話 (第3学年)

自治連合会会長の方から、真野北学区がどのように開発されたか、また町づく

りの・ちいだい持てといったといったが、



〈工夫した点〉

- ・地域ボランティアとして協力を得るため、ポスター作成と募集要項を学区内 に配布した。
- ・真野北支所だよりの中に、募集の記事 を載せてもらい広報した。
- 人材バンクー覧表を再編集した。

〈他校の参考となる点〉

真野北学区では、青少年健全育成学区 民会議が中心となって、餅つき大会や魚 釣り大会、芋掘り体験、科学実験などの 企画がされ、多くの子どもたちが土曜日 ・日曜日に参加している。

2【事業の成果】

- ① ミニ防犯教室で、スクールガードや 青パトあんしん隊の方々と子どもた ちとのつながりができたため、安心感 をもち、すすんであいさつができる子 どもの数も増えてきた。
- ② たくさんの地域の方が、講師として学校へ来てくださることにより、子どもたちとのつながりが深まってきており、子どもたちの姿を地域で見かけたときにも、気軽に子どもに声をかけていただいている。
- ③ 活動後に、お礼の手紙を書くことにより、 ふり返りをすると共に、感謝の気持ちを伝 えることができ、地域の方とより深いつな がりができた。

- ① 今年度は、1年目であり教員と地域コーディネーターとの連携、役割分担に課題を残した。打ち合わせ等の時間を確保し、さらに連携を深めていくことが必要である。
- ② 今後、地域ぐるみで子どもを見守る機運をさらに高めていき、孤立している子どもや、良好な友だち関係を築いていない子ども等に早く気付き、関わりをもつことで、いじめの防止につなげていきたい。

地域とともにある開かれた学校づくりをめざして 【大津市】

【いじめ対応型】

1【事業の概要、特色】

いじめ対応型として事業に取り組む上で、いろいろなボランティアの方々に子どもたちの学習や環境整備に関わる支援をいただく際に、学校内外で子どもたちの様子を見守っていただいている。本校における学校支援の3つの柱は

本校における学校支援の3つの柱は 以下のとおりである。

(1)教科等の学習支援

朝読書の読み聞かせ、3年生の手話学習・世代間交流、4年生の人権学習、高学年のミシン指導、6年生の戦争体験講話など

(2)環境整備や図書室運営への支援

花壇の苗の植え替えや「みのりの森」 (学校学習林)の手入れや整備、学校図 書館の貸し出し支援

(3)安全面、緊急時にかかわる支援 登下校における安全パトロール、あい さつ運動、児童引き渡し訓練における支援



■老人会、たすか一る、レイカディアの 方々による学校学習林の手入れ作業

〈工夫した点〉

〇地域の協力を得ながら「にじのはしま つり」を盛大に開催(11月 25日)

今年度はPTA行事「にじのはしまつり」に、地域のボランティアや大学生など、さまざまな方々に協力いただき、子どもたちが楽しい体験をできるように工夫した。

・成安造形大学の学生さんによる造形遊 びの3つのワークショップ

・読み 聞かれ まっ 「とるく 大り に本



■ 手作りの大型絵本による読み聞かせに引き 込まれる児童

【仰木の里小学校・地域コーディネート本部】

- びわこ成蹊スポーツ大学の先生による運動における身体の使い方の指導
- ・地域の切り絵の先生と図書館ボランティアの方による「にじのはしまつり」のタイトルアート制作

〈他校の参考となる点〉

〇地域の団体、公民館との連携

「仰木の里っ子育成ネットワーク協議会」(地域の諸団体の長で構成されている会議)や公民館との連携を図り、学校支援の依頼や連絡調整、学校だよりの配布等に協力いただき、地域をあげて支援していただくことができた。

2【事業の成果】

- ・学習支援をしてくださった方には、後日お礼の手紙を出したり、発表会を観していただいたがして、交流を図っている。来校される地域の方々が学を入りやすくなり、地域でも児童を見守ろうとする機運も高まった。
- ・図書館ボランティアから、いつも児童に声をかけてもらっているので、居心地のよい親しみの持てる空間になっている。見守られている安心感が子どもの心を落ち着かせ、いじめをしない集団づくりにつながっている。
- ・仰木中学校も本事業に取り組んでおり 地域ぐるみで両校をサポートしていた だき、地域と学校の結びつきがより強 くなった。また、小・中学校の連携も より深めることができた。

3【今後の課題】

(1)環境整備の支援ボランティアの拡 大と増員を図る組織づくり

次年度は環境整備のボランティアの必要性や意義をより深く理解していただくために、年度当初に話し合いを持ち、環境整備ボランティアの組織づくりを計画的に進めたいと考えている。

(2)教科や体験学習のゲストティーチャーや支援員の活用の充実

本事業の意義を教職員自身がもっと 理解し、次年度は、どの教科で地域人材 を活用するか、教育課程の中でしっかり 位置づけることが大切である。

(3) 地域コーディネーターの役割

地域の人材をよく知っていただいている地域コーディネーターの役割は非常に重要で、地域とのパイプ役として、継続的に活躍していただきたい。

学校・家庭・地域が一丸になって子どもを守り、育てる 【大津市

【いじめ対応型】

1【事業の概要、特色】

いじめ対応型の事業として取り組むにあたって、児童のコミュニケーション能力を向上することにより、人間関係の改善を図るとともに、多くの大人の目で児童の変化を捉え、いじめの早期発見、早期対応につなげたいと考えた。

〈工夫した点〉

今年度は活動の重点を二点とした。

(1)地域のいろいろな立場の方と交流する機会を増やし、子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図る。

<具体例>

- ・地域の中学生とともにカレーライスづくりに取り組む「ふれあい交流」
- ※連携·協力:学区民会議
- ・3年生児童がお年寄りの方と昔あそびを楽しむ「昔遊び」体験
- ※指導協力:地域老人会
- ・各種ボランティアグループによる学習 支援(適時実施)
- ※協力:よみきかせグループ「くれよんや」等
- (2) 一人でも多くの地域の方が学校へ足 を運んでもらえる仕組みづくりを行 う。

く具体例>

- ボランティアバンクを新設
- ・協力に対する感謝の気持ちを伝える学校だよりやコーディネーター通信の発 行、学校ホームページによる発信
- ボランティアグループの拠点となるコーディネーター室の開設



■ 地域ボランティアの情報交換の場となるコーディネーター室

〈他 校 の参 考となる点 〉

〇既存の行事の意味づけ

「子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図る」という重点目標の視点に合わせ、内容や時期を見直し再構築した。

< コミュニケーション能力の向上を図 る視点から再構築した具体例>

9 170 7H. 74	
行事名	工夫・改善したこと
鯉のぼり	教えてもらったことに感謝・
交 流	交流する時間の追加

【石山小学校・地域コーディネート本部】

ふれあい	大切にされている実感がもて
交 流	るプログラムの追加
昔遊び	自分たちの得意なことを発表 する時間を追加

2【事業の成果】

- (1) コーディネーター室が、ボランティアの方の活動拠点となり、児童とのふれあいも自然な形で行われている。
- (2)地域コーディネーターが常駐することにより、地域の方が学校へ来られる機会、人数とも増えた。子どもたちもたくさんの方に見守ってもられている思いを強めている。
- (3)行事ごとにつけたい力を明確にすることで活動のねらいや支援の仕方、ボランティアの方々の関わり方が明確になった。

<具体例>

- ①行事:まち探検
- 2 ねらい

地域の伝統や文化にふれ、石山の地域に愛着をもち、自尊感情を高める。

③必要とする支援のあり方

地域の伝統や文化が、先人の苦労や知恵により脈々と受け継がれてきたことに気付かせる。

④ボランティアの関わり方

児童の身近な出来事に例えて、先人の 苦労を実感させる。また先人の苦労や知 恵に気付かせて、地域に愛着と誇りをも たせる。



■児童の学習をささえる学習ボランティア の方々

- (1)コミュニケーション能力の向上を図るために、地域の方とふれあう機会を増やし、お世話になった方に気持ちを伝えたいという願いを高める。
- (2) 広報誌やポスターを作成したり、地域の会議に積極的に出席したりして、より多くの地域の方から協力を得る。

【仰木中学校・地域コーディネート本部】

1【事業の概要、特色】

(1) いじめ対応型事業としてのねらい

- ①学校の教育活動の支援を地域ぐるみで行う ことで、生徒が地域の多様な知識や経験を持 つ大人と触れ合う機会を増やす。
- ②他者を理解しようとする力を養うことで「互いを理解し、認める仲間づくり」につなげる。
- ③多くの大人が関わり、身近に生徒と接することで、地域全体で生徒を見守る体制を整え、いじめの早期発見に努める。

(2) 具体的な取組例

①さまざまな広報活動

- ○ボランティアだよりの発行(1~4号)
- ○地域内行事での美術部制作の看板設置
- ○生徒によるチラシ配布
- ○支所、事業所への美術部制作ポスター掲示
- ○本校ホームページで随時発信

②図書室ボランティア (週5回)

- ○図書の整理、並べ替え等の環境整備
- ○毎日の昼休み図書貸し出し業務

③学習支援ボランティア (1・2年生向)

- ○夏休み補習教室
 - 7月末8月末に計約1週間
- ○2学期定期テスト前 質問教室 中間、期末テストの前に複数回を1・2年 生対象におこなう。

④文化祭において地域ボランティアの方を講師に招いた文化体験コーナーを開催。

- ○切り絵作家、公民館の写真サークル、囲碁 将棋サークル、仰木太鼓保存会の協力
- ○文化祭実行委員の生徒、教員、ボランティ
 - ア講師、地域コ
 - ーディネータ
 - ーが準備段階 より連携。

⑤夏休み地域清掃 ボランティア (8月20日)

生徒、教職員、



保護者・地域団体他のボランティアが地域・ 学校の清掃活動に参加。

〈工夫した点〉

(1)地域への周知、広報活動

事業の取組を地域へ浸透することに重点をおいた。ボランティア便りを約2ヶ月に一度発行し、地域内で回覧し、また地域内の各種団体が集まる会議、催しでも配布した。

(2) 学校支援関係者の関係づくり

各種業務ごとに、該当生徒、担当教員、ボランティアメンバー参加によるミーティングを持ち、コミュニケーションを図るようにした。

活動日誌の記録や活動後アンケートの記入 を地域ボランティアの方にお願いすることに より、今後の事業の参考にできるようにした。

〈他校の参考となる点〉

ボランティア募集のPRポスターの制作を美術部に依頼した。(右図)

個性あふれる子どもらしいポスターが出来上がり、地域へのインパクトもあったと思われる。また、制作に関わった生徒達にも事業のことを知るきっかけになった。



2【事業の成果】

(1)地域ぐるみで事業を進める雰囲気づくり 広報活動を継続して行ったことにより、地域 住民への事業の知名度を上げることができ、校 内の教職員や生徒に対しても、事業への関心を 高めることができた。学校の内外で、地域ぐる みで事業に取り組む雰囲気を盛り上げること ができた。

(2) 地域の支援で運営する図書室の充実

廃棄本の整理、本の並べ替え等、図書室の環境改善が大幅に進んだ。また、昼休みに交代でボランティアの方が入ることにより、静かでなごやかな読書環境が保たれるようになった。

(3) 生徒が安心して取り組める学習支援

学習支援においては、個別対応で支援できる 生徒の数を増やすことができた。多くの大人が

関わり、教員とは、教局できの大対応でアの大変がインの大変がインのもの、質問教室の大変をある。これにより、ではいる。これにより、ないのでは、ないで



(4)地域とともにつくり上げる文化祭

文化祭では、多くの地域住民と生徒の交流の場を持つことができ、仰木太鼓等の地域の伝統文化に触れる機会となった。地域住民にとっても、趣味や特技を発表できる場となった。

3【今後の課題】

(1) ボランティアの確保

引き続きボランティア便りやポスター掲示等で、事業内容の発信、募集を続け、ボランティア人材の確保に努める必要がある。

(2) 学校支援関係者の力量を高める

今後、学校支援ボランティアが「いじめ」や「いじめの疑い」に気付いたり、生徒が「いじめ」や「人間関係の悩み」をボランティアに打ち明けたりするケースも考えられる。その場合に適切な対応ができるようにボランティア、教職員、コーディネーターの連携をより緊密に図るための機会を設ける必要がある。

ボランティア活動を核とした学校と地域の結びつき 【大津市】

【いじめ対応型】

【田上中学校・地域コーディネート本部】

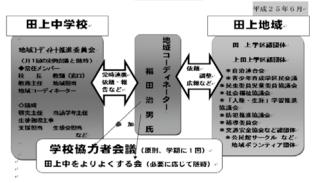
1【事業の概要、特色】

- ①地域(人材)の力を、学習をはじめ様々な教育支援活動として活用させていただき、「学校の様子、生徒の現状をよく知ってもらう」ことを目指している。
- ②生徒の様子・変化を多くの眼で見ていただき、いじめの防止・早期発見の一助にするとともに、子ども同士の良好な人間関係づくりにつなげていくことを目指している。
- ③地域住民から学校への支援という一方通行ではなく、地域行事等への生徒のボランティア参加を推進し、生徒が自分の住む地域や人々に目を向ける機会を増やすことを目指している。

本年度は、上記①について「支援の呼びかけ」と「ボランティアリストの整理」を中心に行う。また、上記③については、10月以降に実際に活動できることを目標に事業を進めた。

〈工夫した点〉

田上中学校:「学校・地域コーディネート本部事業」ビジュアル



- ①上図ビジュアルのとおり、地域コーディネーターの位置づけ、校内の推進体制をはっきりさせた。事業の進捗状況を常に点検し、課題を掘り起こして、改善を図るため、定期的な推進委員会を開催した。
- ②地域コーディネーターを中心に、夏季 休業中に学区諸団体長の方々に対して、事業並びに学校の方針を説明する 機会を設定した。

〈他校の参考となる点〉

- ①工夫②に関して、支援ボランティアの 呼びかけに自治会回覧を活用したこと。
- ②学区諸団体から、「中学生に協力して もらいたい事業」をリストアップして もらったこと。

2【事業の成果】

- (1) さまざまな教育支援ボランティア
- ①地域在住の方に理科・数学の学習支援ボランティアを依頼し、10月以降、週1回来校いただき、生徒の学習支援を行っている。
- ②地域の読書ボランティアグループが、朝読書の時間に、第1学年及び特別支援学級の読み聞かせに複数回来校していただいている。
- (2)生徒の地域へのボランティア参加 生徒たちは、地域に出向いて多くの 方とふれあい、誉められることによ り、次第に自信をつけ自己有用感や意 欲が高まる様子が見られる。
- ①生徒会を中心とした取り組み *老人給食手紙プレゼント *リハビリ施設での演奏会(予定)
- ②生徒会・自主的参加の取り組み *学区(2学区)文化祭のクラフト *クリーンリバー花壇づくり活動 *環境美化ペンキ塗り活動(予定)
- ③部活動を中心とした取り組み *小学校、学区運動会への参加 *地域秋祭りでの演奏会



■ 田上社協老人給食 手紙 プレゼント (11 月 20 日)

■河川敷花壇の花植 え活動に参加(11 月 16 日)

- ①ボランティアリストの拡大と整理、活用方法の検討が課題である。
- ②生徒のボランティア参加については、 結果の検証、次年度への整理、生徒会 の位置づけと拡大の方策が課題であ る。
- ③本年度は年度途中の取り組み開始であったため、教職員のさらなる共通理解が必要である。
- ④たよりの定期的な発行など、通信手段 の確認と保護者・地域への積極的な情 報発信を図る必要がある。

【中央中学校区支援地域本部:平田小学校】

1【事業の概要、特色】

本校の学校支援地域本部事業は3年目を迎えた。今年度より『いじめ対応型』という新たな視点もふまえ、より一層充実した活動となるよう取り組んだ。

今年度の主な活動は、以下のとおりである。

5月17日 第1回総会

5月22日 読書ボランティア開始

(毎週水曜日実施)

6月12日 除草作業・枝打ち

7月10日 除草作業・枝打ち

9月11日 愛校作業の草運搬処理

10月 9日 『全校ふれあい遠足』打合せ

11月 6日 『全校ふれあい遠足』引率

11月20日 学級園・一人一鉢用土作り

12月 4日 一人一鉢苗植え補助

学校花壇苗植え

1月23日 お菓子作り

3月中 感謝のつどい

〈工夫した点〉

『いじめ対応型』ということで、各活動に入る前に、 学校支援地域コーディネーターとの話し合いの場をも ち、共通したねらい(願い)をもって取り組むように心 がけた。

その中で、活動の充実と子どもとのふれあいの場を 確保するために、取組を定期的にしていく方がよいと の声があがり、毎月第2水曜日を『学校支援の日』と することにした。子ども達との交流の場が増えたこと はもちろん、活動的にも、事前連絡をする必要がなく なり学校の要望に応えていただける機会が多くなった ことでより充実したものになった。

〈他校の参考となる点〉

支援員の方は、全くのボランティア精神で学校のために意欲的に活動をしてくださっている。その根底には「地域で健やかな子どもを育てたい。」という願いが



あるからであり、これは、子どもの人権感覚を育てる という点で『いじめ対応型』としての本事業の趣旨と 共通している。

今年度は、子ども達の成長を実感し見守っていただけるよう、ふれあう機会をできるだけ多く設けるようにした。

学校の一角に『学校支援地域本部事業の方のお部屋』 と称して、小さな部屋を設置し、子ども達が自由に出 入りできるようにした。まだ、十分な交流とまでは至ってないが、窓から見える子どもの姿を見ては、登下校や地域での遊びの様子等いろいろと話題になり、学校とは違った姿を知るなど、情報交換の場となっている。また、本校の大きな取組である児童会活動『全校ふれあい遠足』では、彦根城までの長距離を安全管理のため引率してもらうだけでなく、天守閣で一緒にお弁当を食べたり遊んだりする計画を立てた。地域では自己中心的な行動をとる子が、集団に入ると友達と協力し合う姿に感心される等、児童理解のよい機会にな

っている。3 学期に実施する『感謝のつどい』では、 感謝の思いを発表したり、 地域の方から一年間の感想 を話してもらったりする活 動を行っているが、互いの



思いを知るよい交流活動の場になっている。

2【事業の成果】

今年度から『いじめ対応型』を視野に取り組んできたが、その点から見た成果と、学校支援地域本部事業 そのものの成果としては以下のとおりである。

- ○事前に地域の方との話し合いの場をもつことで、活動のねらいだけでなく、こんな子どもを育てたいといった具体的な姿が共通理解できた。
- ○互いを思いやる心、感謝する心が育つことで、職員 と支援員、支援員と子ども達との関係が一層深まっ た。
- ○支援員の方にとって、地域と学校で子どもを育てる という思いが強まり、それが新たな活力につながっ た。
- ○定期的に実施することで、活動がスムーズに運営されるようになり、地域と学校との垣根がなくなった。

3【今後の課題】

本事業を通して、思いやりや感謝の気持ちが育ってきていることは確かだが、それが日々の学校生活に生かされているかといえば、粗暴な言動も見られる等、まだまだ不十分である。

また、活動は活性化されているが、今後支援員の方の高齢化が懸念される。少しずつ軌道に乗り出した本事業であるが、これが今後何年も続くかといえば課題は残る。『いじめ対応型』として、子ども達の豊かな心を育むという点でも、成果が上がってきているだけに、本事業を、より多くの地域の方に理解していただき、支援員の方の発掘に努め、今後、長年にわたって実施できる事業としていくよう取り組む必要があると考えている。

学校と地域の「豊かなつながり」

【彦根市】

【いじめ対応型】

1【事業の概要、特色】

子どもと地域、そして、学校と家庭や地域との「豊かなつながり」をつくり、金城学区全体として子どもたちの教育活動の充実と、人権が守られ安全で安心な学校づくりをめざして本事業に取り組んでいる。

本事業が開始される前から、「健やか金城の会」が結成され、子どもたちの健全育成や地域の防犯見廻りなどで、学校に支援をいただいていた。その活動を本事業にもつなげて、継続発展して取り組んできている。

〈工夫した点〉

毎月、第3水曜日を学校支援本部事業の定例会に設定し、活動内容の計画と確認を行うようにした。

また、職員室前廊下にボランティアの活動を紹介する写真を掲示することで、子どもたちや保護者に活動内容を目に見える形で知らせるようにした。

また、学校支援ボランティアの参加を呼びかけるチラシ「学校へ行こう」を中学校区全世帯に配布した。

〈他校の参考となる点〉

①登下校の安全パトロールとあいさつ



り」と声をかけてくださっている。

さらに、ボランティアの方とあいさつを交わすことで、人との関わりの基本であるあいさつができる子どもの育成にもつなげている。

②感謝の気持ちを伝える

6年生の児童は、金城見廻り隊の方々 大事中見舞いのはがきを出し、の頃気 世話になっていることへの感謝の多方の ちを伝えている。見廻り隊の多くのの方か ち返事のはがきをいただき、相互の がりを深めた。秋には 5、6年生の が感謝の気持ちをメッセージカード が感謝の気持ちをメッセーっている。

また、毎年3年生では、地域のボランティアの方に、ゲストティーチャーとして昔のあそびを教えに来ていただいている。その時は、授業の始めと終わりに必ずあいさつをすることはもちろん、お

【中央中学校区支援地域本部:金城小学校】

礼の手紙を書くことを教科指導の一環として取り組んでいる。

③読み聞かせ・影絵

ボの通金のを全影 読ラ方し曜読、校絵かイ間水絵か月でっせアを~本せのはて



いただいた。豊かな情操の育成につなげるとともに、12月には人権週間にちなんだ絵本(「平和ってどんなこと」)を選んでいただき、子どもたちの人権意識の向上といじめ防止等に役立てている。

2【事業の成果】

子どもの様子で気になることがあれば、ボランティアの方から学校へ、すぐに連絡をいただいた。互いに連携をとることで、校内では気づかない子どもの情報を得て、児童理解と指導に役立てることができた。

また、子どもの教を感している。 またなり、できないなどをする。 でで守る。このことは、ボラレたり、かいさいででいる。 でなり、であれては、ボラレたり、かいさいを変したりである。 であいさ子どもための温からさい。 である。このように、を育したの温かに、 がえる。 であることができている。 のはい機会とすることができている。

3【今後の課題】

また、子どもたちとボランティアの方のつながりをより深めていくことも課題である。子どもたちが、ボランティどの方に気軽に話すことができ、悩みごとも聞いてもらえる関係を築くことががもりがよりにめ防止対策の一つにつながると考えている。

学校と地域を結ぶSCHOOL SUPPORT 【彦根市】

【いじめ対応型】

【事業の概要、特色】

子どもを取り巻く環境が刻々と変化 する中、未来を担う子どもたちを健やか に育むためには、学校と地域が連携を図 り地域ぐるみで子育ての体制を整える ことが大切である。

本事業は、今年度3年目を迎えるが、 地域の多彩な人材を学校教育に活用す ることで、学力向上や体験的な学習、さ らには環境整備作業等、一層の学校教育 の充実を目指し活動を展開している。

- ○人材の発掘を目指した広報活動
 - ・チラシ作成および配布
- ○環境整備
 - ペンキ塗りおよび花植え
- ○安心・安全パトロール
 - ・登下校時に子どもへの声かけおよ び見守り

〈工夫した点〉

- 地域コーディネ ーターやボラ ンティアの方 からの積極的 な発言やアイ デアを取り入 れ、学校を支援 する輪が広げ られたこと。
- 事業の充実を図 るため、6月に 校区全戸にチ ラシを配布し 地域住民への



周知徹底を図ったこと。

〈他校の参考となる点〉

年度当初、昨年まで実施してきた「学 校支援地域本部事業」に「いじめ対応型」 を加え、一つの枠組みとして捉えなおす 中で、より充実した教育支援活動を目指 し話し合いを重ねた。

まず、本校における「いじめに関する 実態および生徒の様子」について、コー

ディネータ ーや地域ボ ランティア の核になる 方との話し 合いの場を 持ち、情報 共有する中 で今年度の 重点取り組



【中央中学校区支援地域本部:中央中学校】

みを、「いじめの未然防止と早期発見の ための取組と指導体制の充実」に決定し た。

【学校】では

現状として、いじめに関する重大事案 の報告はあがってきていない。しかし、 からかい等心配されるケースは見受け られるので日頃から生徒の観察はもち ろんのこと、定期教育相談やアンケート を実施し早期発見・早期対応に努める。

普段から教師が、授業・休み時間を中 心に校内を巡視し、生徒の気になる言動 などを見逃さない。また、教師間におい て緊密な連携をとる。

【地域】では 以前と比べると挨拶を交わせる中学 生が増えてきた。

小学校の子どもたちの下校時に、各地 域のポイントにおいての交通指導の際、 中学生に対しても積極的に声かけ・挨拶 をすることで子どもたちの安心(いじめ ・悩み)・安全の確保を図る。

2 【事業の成果】

学校が抱えるハード面(環境整備等)

の課題解決 と、子どもた -ちに身につけ させたい力の ソフト面(挨 拶等)を育成 できるよう、 様々な場面に おいて取組を 展開してい



学校においては、子どもとの積極的な 関わりを重視した教育相談等の推進が 図れた。また、年間を通し、子どもにと って所属感、存在感、連帯感の感じられ る活動を意識し取り組めた。

- ・ 近隣幼稚園との連携を図る。
- ・定期的な会議を持つ中で、学校側のニ ーズや思いを明示しコーディネータ ーやボランティアとの共有を図る。
- 生徒の登下校時に、普段から気軽に 声がかけられる環境づくりの充実や 本校が毎月始めに実施しているフリ 一参観を地域にアピールすることで、 子どもと向き合える機会を確保し連 携と強化を図る。

『ボランティアさんと子ども・教師とのつながりを求めて』 [彦根市]

________ 【いじめ対応型】

【稲枝中学校区支援地域本部:稲枝東小学校】

1 【事業の概要・特色・成果】

『学校支援ボランティアさんの紹介』

子どもたちは、一部のボランティアさんとの交流はあっても、学校にはどんなボランティアさんが何人くらいおられるのか、ほとんどわかっていない状態である。また、あるボランティアさんに対して、「このボランティアでいくらもらっているの?」と尋ねた子どもがいたのが現状であった。

そこで、今年度は、子どもたちと教職員に、こんなに多くのボランティアさんが自分たちのお世話をしてくださっていることを是非、知らせたいと考え、5月の全校集会で、「学校支援ボランティアの皆さんの紹介」を計画した。

本校では、多くの目で子どもを見守るために、 家庭や地域と連携した取組を進めている。

- ○日時 5月1日(水)1校時 全校集会
- ○場所 体育館
- ○内容 ステージ前に、ボランティアのみなさんに ボランティアごとに分かれて並んでいただ き、順に自己紹介と一言ずつお話をして いただいた。
 - *学習支援ボランティア(5名)
 - *読み聞かせボランティア(9名)
 - *トイレの神様ボランティア(5名)
 - * 園 芸 ボランティア (3名)

当日は、朝早くから出にくい時間帯でもあり、 全員のボランティアさんに参加していただくことは できなかったが、有意義な時間になった。



ボランティアさんと給 食会

『学校支援ボランティアさんの声』

毎年、年度末に、お世話になってきたボランティアさんに、1年間の活動の中で感じられたことや学校に対する提案等をお聞かせいただくため、記述式のアンケートをお願いしている。

このボランティアさんからの声をまとめ、職員に 提案することで、ボランティアさんの生の声を聞く ことができた。

◎学校という聖域に、資格を持たない民間人が 入らせていただいたことに、今も感謝しています。 かつて、中学生の頃、一度は憧れた仕事のお手 伝いをさせていただけることが、私にとってありが たい喜びでした。 自分の弱さを故場ない。
の明されたのの味とある
の味とある
の味と
のいまと
のいまた
のいまた
のいます。

(学習支援ボランティア)



園芸ボランティアさんと野菜作り

◎4年目ですが、毎回、楽しく活動させてもらっています。最近は、子どもたちが座っている中に一緒に入って、読み聞かせを聞いてくださる先生も多く、はずかしくもあり嬉しくもあります。私もどんな本を選ぶか、どのように読むか等、子どもたちや先生の反応を見て、これからも勉強させていただきたいと思っております。

(読み聞かせボランティア)

◎ほぼ1年になります。月・火・木・金曜日で、出られる日は参加しています。お昼休みが終わった後、約15分間の掃除時間です。学校支援の目的、活動範囲、指導内容、教育現場への参加ルール、守秘義務等の説明会のような場とか、また資質向上の研修のような場が、学校支援協議会で計画されるといいと思います。

(トイレの神様ボランティア)

◎園芸ボランティアを担当して4年になり、特に5年生との農業に関する教室での対話は、楽しみながらやっています。参考になるよう努力して続けていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いします。 (園芸ボランティア)

これらは、ボランティアさんの声の一部であるが、ボランティアさん一人一人の思いや考えを知ることができる。子どもたちの思い・人間関係等をしっかり把握し、適時的な声かけをしていただくことで、子どもたちの集団の中に安心感ができた。このことを教職員全員で情報共有・共通理解し、子どもたちへの指導に活かすことができた。まさに、教師とボランティアさんとをつなぐ活動となった。これからも手厚い学習支援や学習環境づくり等を通して、子ども一人ひとりが大切にされる地域との連携を進めていきたい。

- ・積極的に子どもに声をかけ、あいさつをする地域の人の輪、いじめ防止のため多くの目で子どもを見守る取組がさらに広がっていくこと。
- ・子どもたちに、稲枝のよさ、人の温かさ、正しい 判断力の大切さ、自治的活動のよさ、地域文化 の多様性等を伝えていくこと。
- ・かつてのように、地域住民に対して、学校が地域文化の宝庫、集いや憩いの場として、地域に根ざした拠点になる取組を進めること。
- ・ボランティアの方々に「義務感」ではなく、「やりがい」「楽しみ」を大切にすること。

【稲枝中学校区支援地域本部:稲枝西小学校】

1【事業の概要、特色、工夫した点】

(1) 花壇・花づくりへの支援

稲枝西小学校は、毎週火曜日の朝(8:20~8:35)、フラワータイムを設定している。全校児童・全職員が外に出て、花壇や学級園などの世話を行う。

FBC (フラワーブラボーコンクール) に参加し、毎年何らかの賞を獲得するなど花づくりが大変盛んである。

しかし、児童数が年々減少し、子どもたちだけでは限られた時間内に活動を終えることができなくなってきた。そこで、子どもたちの活動時間に地域ボランティアの方々に来ていただき、種まき・土おこし・ポットへの植えかえ等一緒に活動していただいた。



(2) もちつき大会

稲枝西小学校は、PTA行事の一つとして年2回土日に活動を行っている。その一つに、もちつき大会がある。児童も保護者も大変楽しみにしている行事で参加率も80%近くにのぼる。臼と杵で餅をつき、きなこ・砂糖醤油・ぜんざいの三つの味がその場で楽しめる。

しかし、年々もちつきの経験者が減っているため、地域の餅屋さんを含むたくさんのボランティアの方々に協力を願った。子どもたちに餅のつき方を教えていただき、小さくち



ぎっていた だいた。

まさ・家を ・地域る絶好 のた。

2【事業の成果】

また、地域ボランティアの方が、花壇への支援やPTA行事の支援などで何度も学校へ来てくださる。子どもたちにといてまさに頼りになる地域の名人・達人的存在であった。今まで以上に親しくを感じ、「芽が大きくなったよ。」「今度、植えかえるので手伝ってね。」「今度、植えかえるので手伝ってね。」「ちなった。

3【今後の課題】

年々児童が減少し、学級の子どもたちの活動だけでは手の行き届かないところが増えてきた。「学校の仲間」や「地域の仲間」の支援に支えていただきながら、安心して活動できていることに感謝する気持ちを、今後さらにみんなに伝える機会を作っていきたいと考える。

【稲枝中学校区支援地域本部:稲枝北小学校】

1【事業の概要、特色】

① 読書ボランティア活動

毎朝の読書の時間におはなしタイムを設定し読み聞かせ等の読書活動を実施している。今年度も9名の登録があり、毎月第2・第4木曜日の15分間、各教室で絵本な



間である。地域の方とのふれあいを深めると共に、豊かな心情を養う意味でも意義のある活動になっている。

② 稲村かるたオリエンテーリング

本校恒例の稲村かるたオリエンテーリングは、地域の自然環境や文化遺産をめぐりながら郷土のよさを知り、自然や文化を愛し郷土を愛する心を育むことをねらいとして実施している。

地域を巡る三つのコースがあり、3年間で全てのコースを巡ることになる。12班の縦割り班ごとに行動し、異年齢の子ども間の協力と信頼の気持ちも育むことができる意義深い活動である。平成25年度は甲崎・薩摩・柳川方面の「稲村かるた」に詠まれた地点を訪れた。

地域の民生委員・児童委員さんや支援ボランティアの方々が多数参加してくださり、 その後、子どもと共に各ポイントを回って 安全確保、ふれあいに努めてくださった。

各ポイントでは、教師や地域の方々から



沼、柳川の柳川港で、地域の方々が熱心に

説明してくださっ た。

到着した緑地公園では、ゴミ拾い等の奉仕活動をしたり、集団ゲームをしたりしなが



ら、高学年が下学年の世話をするなど、各 学年の絆を深めることができた。

支援ボランティア、民生委員・児童委員、 保護者の方に温かく見守っていただき、安 全に活動することができた。子どもたちの 人間関係を的確に捉え、適宜声かけをした り、子どもたちとの豊かなつながりを築い たりしてくださった。これらのことはいじ め防止の取組につながっていくと考える。

③ 環境整備活動

各学年の教科に関連した栽培活動では、 4年生の瓢箪栽培を始め、3年生の米作り などに、多大な支援をいただいている。安 全・安心まちづくり協議会の方々には、校

内の環境整備にいる ではいた。 大さき、地やや整備、運動整備を ができたがれる。 ではいた。



2 【事業の成果】

おはなしタイム、行事やふるさと学習への支援以外にも夏季休業中の学力補充に6名の地域の方々に支援をいただき、子どもたちと1対1で向き合って学習を支援してもらうことで、学力だけでなく、正しい判断力を付けることにもつながった。

3【今後の課題】

支援ボランティアの人材を効果的に活用し、学校の教育活動を充実させていくために、また、タイミングのよい支援となるために、地域の各種団体との連携をさらに強化していくことが必要である。

「保・幼・小・中全校園に広がる学校支援の輪」 [彦根市]

【いじめ対応型】

【稲枝中学校区支援地域本部:稲枝中学校】

1【事業の概要、特色】

学校支援地域本部が発足して6年目を迎 えました。当初から「稲枝はひとつ」の考えの もと地域を挙げて支援を行い、稲枝地区の保 幼・小・中の子どもたちが立派に育つよう にと願い、連合自治会をはじめ各種団体で組 織する「学校支援協議会」が中心となり活動を 展開してきました。今年度は、構成団体に稲 枝地区青少年指導委員会にも加わっていただ き、気になる子の情報共有をするなど、より 幅広い観点で支援を行う体制作りができまし た。活動内容は、今までの活動を充実発展し ていく観点で取り組み、より深化している状 況です。読み聞かせをはじめ、登下校の見守 り、環境整備、地域学習補助、野菜花づくり 補助、学習支援など、学校や園の要望に沿い ながら、様々な活動が展開されてきました。

〈工夫した点〉

読み聞かせ研修会を年1回実施していますが、講師さんから教えていただく事の他に今年度は、読み聞かせボランティアさん同士の交流を行うことができました。8校園でそれぞれ読み聞かせを行っているので普段は違う校園の読み聞かせボランティアさん同士が顔を合わせることがないので「交流会ができて大変よかった」と参加者から感想をいただきました。

〈他校の参考となる点〉

ボランティアさんの拡充については、退職 教職員互助会彦根愛犬支部の総会で稲枝学校 支援協議会の取組を紹介して教職員の OB に ボランティア参加を呼びかけたり、民生児童 員の改選期に退任される方にボランティア参

加を呼びかけたり して、次第にボラ ンティアの輪が広 がってきていま す。



2【事業の成果】

本事業も6年目となり、今年度は「いじめ対応型」ということで「いじめを未然に防止する、いじめを継続拡大させない」という観点で学校支援に取り組んできました。児童生徒を見守るだけでなく、子どもたちが学校支援によって学校生活が楽しい、自分たちのためになっているんだと感じられるような活動を指向してきました。学校支援に対する中学生の感想に見られるように、正しい判断力とともに協調性等も育ってきています。

中学生の感想文

読み聞かせによって

読み聞かせのボランティアの方々は、毎回興味深い本を持って、わざわざ中学校まで足を運んできてくださいます。

ただおもしろいだけじゃなく考えさせられるような本を読んでくださり、とても勉強になりました。普通に生活している中では、あまり手に取らないような本を読んでくださるので、物の見方が変わり、自分の中の世界観が広くなりました。

読み聞かせに来てくださる方々を見ていて、私も地域の人の役に立つようなボランティアをしたいなと思い、積極的に参加していこうと思いました。

3【今後の課題】

6年間の学校支援活動で組織、支援内容、ボランティアについて一定のスタイルが確立していますが継続、充実・深化・発展するためにはマンネリ化を防がなければなりません。そのために、今以上に教職員からのニーズにあった活動を指向しなければなりません。また、夏祭りに見られたように中学生が地域の人々とともに準備したような体験や地域の大人ともちつきや遊び等の体験を通して、子どもたちの健やかな成長に寄与する活動を模索していかなければなりません。

地域との連携を深め、居場所のある学校を目指して 【近江八幡市】

【いじめ対応型】

【桐原小学校支援地域本部】

1【事業の概要・特色】

いじめ対応・いじめ対策として、

- I 昼休み・掃除時間・登下校時を中心とした「見守り活動」
- II ボランティアルーム・図書室・多目的ホール等を活用した「子どもの居場所づくり活動」、子どもたちにとって「居心地のよい空間つくり活動」
 - の両面から取り組むこととした。
- I 昼休み・掃除時間・登下校時を中心とした「見守り活動」について
- 1 昼休み・掃除時間の「見守り活動」

【活動の概要】

毎日昼休み、いじめ対策として、地域のボランティアの皆様に、学校内や校庭を見守っていただいている。

また、掃除の時間の子どもたちに声をかけていただいたり、一緒になって掃除をしていただいたりしている。



2 登下校時の見守り活動

【活動の概要・特色】

子どもたちの安全・安心の登下校のため、 スクールガードの皆様に、毎日活動を展開し ていただいている。



3 学校支援ボランティアの皆様による学習 中の「見守り活動」

【活動の概要】

6年生が歴史学習で奈良を訪れたり、3年生が社会科の学習として町探検に行ったり、2年生が駅探検に行ったりする際に、子どもたちの安全と見学の様子を見守っていただいている。



- II ボランティアルーム・図書室・多目的ホール等を活用した「子どもの居場所づくり」と子どもたちにとっての「居心地のよい空間つくり活動」について
- 1 ボランティアルームを活用した取組

【活動の概要】

地域の方々が子どもたちと気軽にふれあい、 一人になりがちな子どもの遊び相手として、 ボランティアルームを活用して、居心地のい い空間づくりに努めていただいている。

そこでは、子どもたちと一緒に将棋やカードゲームなどをしたり、おしゃべりをしたり しながら、子どもたちにふれあってくださっている。



2 居心地よい図書室環境づくり

【活動の概要】

子どもたちにとって居心地のよい図書室とするため、また、一人でも多くの本好きの子どもを育てるため、図書室の環境を整えていただいている。

本棚の整理や古くて子どもが手に取りにくい本の廃棄手続きの支援の他、季節に応じた雰囲気づくりに努めていただいている。



3 多目的ホールを活用した居場所づくり

① 木エパズル遊び

【活動の概要】

学区にお住まいの名倉さんに月1~2回昼休み、自作の木工パズルやゲームをもってきていただき、ワクワクする楽しい時間を提供していただいている。

【活動の成果】

木の温もりに触れ遊ぶことにより、友だち同士知恵を出し合ったり、担任の先生といっしょに考えたり、高学年が低学年に教えたりと、ほほえましい姿が多く見られる。

遊ぶ子どもたちの様子を見守っていただきながら、「1学期は一人ひとりで遊んでいる姿が多かったのに、最近は友だちと知恵を出し合って、助け合って挑戦するようになってきた。」と子どもの成長や変化についても教え



ていただいている。

② 近江クロマティックハーモニカ・クラブ の皆様による演奏会

【活動の概要】

年間2回昼休み、近江クロマチックハーモニカ・クラブの皆様に、素敵な演奏を聴かせていただいている。

7月には「桐原小学校の校歌」や「おもちゃのチャチャチャ」などよく知っている曲は子どもたちがいっしょに歌い、「月の砂漠」「ふるさと」などの曲は音色に聴き入った。

また、12月にも「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」「聖者の行進」などの曲を演奏していただき、すてきな時間をプレゼントしていただいた。



③ 江州音頭体験

【活動の概要】

地域にお住まいの松田さんに「江州音頭」を教えていただいた。振り付けの由来や踊り方を教えていただき、



参加した子どもたちは楽しく体験することが できた。滋賀の伝統と文化に触れたひととき となった。

【事業の成果と今後の課題】

昼休み・掃除時間等の見守り活動の中で、子どもたちのちょっとしたトラブルなどの情報を気軽に伝えていただくことにより、いじめなどの早期発見・早期対応が可能となった。

今後、見守り活動をしていただく方々の輪を広げるとともに、休み時間の過ごし方に不安を抱く子どもたちのため、地域の方々との心の交流・ふれあいができる居場所づくりをさらに進めていきたい。

【安土小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

いじめなど学校での様々な問題を解決するためには、学校だけでなく地域全体で対応策を考えていくことが必要である。

そこで、学校での学習活動や校外学習での支援はもとより、いじめ対応と地域の点を持った生徒指導においても、地域の方々からの支援を得て事業を進める。 その中で、教職員がコーディシーと意思疎通、連携を図りながらの醸成、早期対応・抑止力の醸成、児童の豊かな体験活動を進める。

〈工夫した点〉

教職員は、学校での子どもに関する問題は、学校だけで解決しなければならないという意識が強い。

そこで、教職員の意識を改革するために、コミュニティ・スクールマイスターの髙木和久先生を講師として招き、教職員対象の「いじめ対応研修会」を行った。 髙木先生からは以下の事柄をご指摘いただいた。

- ・いじめをなくすためには、児童会(自治)の力が必要である。そしてそれを地域に広めることが大切である。
- ・学校評価アンケートで、学校が楽しくないという子に注目することが必要である。
- ・地域を、学校教育に役立つ範囲でとらえてはならない。
- ・将来、地域に貢献できる子どもを育成 することが大切である。
- ・ボランティアの人数や体験の数だけに とらわれず、子どもたちの心がどれだけ 変わったかを見ることが大事である。
- ・学校と地域と行政が、協働(一緒に考え、汗をかき、行動)することが大切で



いじめ対応研修会

ある。そこでは、共通理解だけに終わらず、共通実践をしなければならない。

ご指摘いただいたことを生かし学校の取組を行うと共に保護者・地域へ呼びかけ、協働体制の充実に努めている。

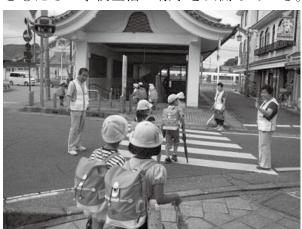
〈他校の参考となる点〉

いじめは、学校内だけでなく、地域に 帰った時や登下校中に起きることもあ る。

そこで、教職員が定期的に下校時間を 中心に地域を回り、子どもたちの様子を 見ている。

また、登下校中の見守り・声かけ活動をしてくださっているボランティアグループやPTA・地域の役員さんからも、子どもたちの様子で気になることがあれば連絡をいただいている。

さらに、保護者や地域住民に対し、学校ホームページ上のブログで、ほぼ毎日子どもたちの学校生活の様子を公開している。



ボランティアグループによる子ども見守り・声かけ活動

〈その他の学習活動紹介〉

日常的に学校に学習ボランティアを招いたり、校区での校外学習で地域のボランティアにお世話になったりして、効果的な学習のために大きな貢献をしていただいている。

教職員がそのボランティアを募る際、本校に配置されているコーディネーターが、地元在住の強みを大いに発揮し、ネットワークを駆使して、ボランティアの確保に尽力いただいている。

その学習活動の一部を紹介したい。

①お話ボランティア 「にょきにょき」さん 毎週木曜日の始業前の時間帯に各学級で読み聞かせをしていただいている。

時折行われる昼休みの特別教室でのお話し 会でも、たくさんの子どもたちが参加した。



お話ボランティアによる昼休みのお話し会

②4年 西の湖環境学習

西の湖の魚、貝、植物、水、環境等の様子について地域の方からお話を聞いたり、和船に乗ってそれらを身近に感じたりして、環境保全の大切さと自分たちがどうすべきかを学んだ。



4年 和船に乗って西の湖環境学習

③5年 米作り



5年 田植え

田植え、稲刈り、除草など米作りの一端を地域の方々に指導いただきながら体験する中で、農業や食の大切さについて学んだ。

③6年 ふるさとウォーク

地域の人たちの支援を得て、繖山(観音寺山)を踏破した。歩きながら身近に観音正寺、観音寺城跡等の文化財、歴史遺物を見学し、郷土のすばらしさを感じた。



6年 ふるさとウォーク

2【事業の成果】

- ・コーディネーターの活躍もあり、ボランティアの方にたくさん学校に来ていただいたり、校外学習でご協力いただいたりして、学習の成果が上がった。
- ・子どもたちとボランティアとのふれあう機会が多くなり、子どもたちは学校でも地域でも大人に見守られていると感じ、ボランティアの人たちは、自分たちも子どもたちを育てる一翼を担っているという気持ちを持たれるようになってきたようだ。

3【今後の課題】

・学校が望む幅広いボランティアをさらに多く確保すること、反対にボランティアをしたいと思われる方をいかに学校が把握するかが今後の課題である。

ホームページ、PTA役員、コミュニティセンターへのよびかけなどにより、情報の発信や収集に努める必要がある。・ボランティアの思いを聞く場やボランティア同士の交流の場を設定することも大切である。

【八幡中学校学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

今年度から本事業を開始した。本校が考えるこの事業の趣旨は、『(1)地域ぐるみで生徒の育ちを支える。(2)豊かな人間性を育み、郷土に愛着と誇りをもつ生徒を育てる。(3)学校が抱える課題への支援を通して質の高い公教育をめざす。』の3点である。

この事業を進めるにあたり、まずは教職員の意識の共有化を図ることが大切と考え、次のように設定した。

教職員の意識の変革

我々は、地域で生まれ、育ち、次代を担う 生徒を預かっている。地域のことを学び、地域に貢献する教育活動を行うことは使命で ある。学校において、地域の人材を有効に活 用し、地域の方々とのふれあいの中で、生徒 の人間関係形成能力を向上させる取組を推 進することは、いじめや不登校などの学校が 抱える課題に有効である。

めざす地域連携の形

学校を支援する地域⇔地域に貢献する学校

そこで、総合フィールドワーク、交通立番、補充教室、いじめ・不登校講演ライブなど延べ12の事業を展開したが、ここでは、授業支援ボランティアについて紹介する。

(1)2年 『調理実習』支援ボランティア

5らま授惑、違てや助中月家でっ順たるへ。旬中庭、たをり生の



(2)全学年 『水泳実習』支援ボランティア

6月中旬から7月中旬まで体育の授業で、 更衣や見学者への支援、緊急時の対応。

(3)全学年 『書道実習』支援ボランティア



1国業惑るのアスの語でっ生支ド、提月の、て徒援バ手

示。

(4) 1年 『被服実習』支援ボランティア

1月から2月に家庭の授業で、戸惑ったり、 手順を間違えたりしている生徒への手助け。

〈工夫した点〉

- ●スタート年度であることもあり、『無理を せずに、できることから、できる人に』を モットーとして事業を計画した。
- ●時間割の中に、地域会議の時間を設定し、 週一回担当者で打ち合わせを行った。
- ●ボランティア用に地域連携室を設けるとと もに、職員室に地域コーディネーターの座 席を設け、常に交流がもてるよう配慮した。
- ●地域全体に浸透するように、学校だより(全世帯回覧)に、支援地域本部の事業紹介や募集を定期的に行った。
- ●11月にボランティアの情報交換会を実施 し、学校側の趣旨を再確認した。

2 【事業の成果】

- ●実習を行うと生徒は、座学ではなく活動的になる。授業を受け持つ教師―人では目が届きにくい場面が多々ある。見られている意識が強くなり実習に集中する生徒が増えてきた。
- ●地域の方が気になる生徒に、先入観なく気 さくに声をかけてくださるので、生徒も素 直に応対し心の安定につながっている。
- ●授業の中でなかなか話さない(話す機会がない)生徒も、何気ない会話で話をする機会が増え、集団に中にいるという所属感を感じるようになり、生徒同士の会話も増えるようになっている。
- ●地域の方から学ぶことも多く、教師にとっても、良い刺激になっている。

- ●始まったばかりで手探りの中で事業を進めてきた。地域コーディネーターとの連携は密に行えたが、実際にボランティアしてくださる方と授業者の連携がうまくいかず、ボランティアの方がどこまで生徒と接していいのか困っておられた場面があった。今年度の取組の反省を次年度に生かしたい。
- ●中学校では、授業の中で地域の方とふれあいながら支援を行うのがよいと考え、一年間取り組んできた。今後放課後など有効活用し、学習や同好会のような形で、個々でのふれあいの中で心の安定を図る取組も視野に入れて事業を展開していきたいと考えている。

【岩根小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

本校は、平成19年4月「学校運営協議会 ・理事会」を設置。今日の学校教育の現状と課題について「制度的」「物的」「人的」

「教育内容的」の4側面から見直しを実施。 平成20年度に「学校支援地域本部事業」 を受け、教育課題の解決に向け、学校では、 地域の教育力を活かし、子どもの今日的課題 の解決と豊かな学びをめざしています。地域 のは、自治の豊かさ(ローカル・コミュニティー) には、自治の豊かさ(ローカル・コミュニティー) イ)および、自己の生活や価値の高揚・受容 をめざす豊かな集団 (テーマ・コミュニティ)の縦軸・横軸の相互のコミュニティの育成 を求めています

曜教室、放課後教室、1年生清掃支援等で、 昨年度末に学校運営協議会理事会からいた だいた三つの提言の中の一つである「**いじめ** の早期発見、早期対応の体制づくり」に取り組んできました。より多くの目で子どもといかわりながら、子どもを見守り、支援していただく中で、子どもの心のつぶやきや、わずかな変化を見逃さず、地域コーディネターや学校職員に連絡、連携いただく体制をとっていただいでいます。 ていただいています。

〔校内ボランティア〕

- ・11クラブ活動の指導(地域の先生) ・総合的な学習や行事のゲストティーチャー及び教科等の学習支援 ・図書館の整理や読み間かせ等の支援
- ・放課後の低学年の子どもたちの遊び場づくり及びスポーツ教室(放課後教室)
- ・外国籍児童、保護者への支援・特別支援教育対象児への学習支援
- ・校地の草刈等の環境支援
- ・1年生の清掃活動支援

- **「校外ボランティア」**・地域での子どもの居場所づくり
 ・店長修業(就労体験) 3 年・6 年)
- ・子どもを「お客さん」にしない自治活動 ・子どもの下校見守りボランティア ・親子環境ボランティア (PTA) ・高齢者とのふれあいサロンでの交流

- ・就学前の園児との5・5交流

〈工夫した点〉

地域と家庭と学校とが子どもの課題を 常に共有して支援にあたったこと 〈豊かさの中で子どもたちが失った大切な ものを取り戻すこと〉

- ① 自分の考えで行動できる子、自分の 事は自分でできる子に育てる。 ② 失敗を恐れず、失敗から学ぼうとす
- る子、自他の違いを認め合える子に育 てる。

子どもを「お客さん」にせず、地域の 担い手となるように育てる。

地域にも子どもが主体的に参加し、学ぶ

□ 地域にも子どもが主体的に参加し、字 場をつくっていただいていること 子どもたちにとって「学校も地域の一部、地域も子どもたちの大切な学びの場」をテーマとし、子どもたちが地域に出て学ぶ場を求めてきました。 この中で、「岩根まちづくり協議会」や「岩根地域ホタルを飛ばそう会」の皆さんの運営をいただき。 子どもが主体となって運営

添えをいただき、子どもが主体となって運営 する「ホタルまつり」のお店活動や、学校の クラブ活動などでの学習の成果を地域で行う「岩根まちづくりフェア」のステージで発表する場をもっていただき、友だちとの一体感や、ともに協力して発表する中で、子ども自身の存在感や成就感を育んでいます。

〈他校の参考となる点〉○ ボランティアと教員の全体交流研修会をワールドカフェ方式で開催したこと
日頃、子どもとのかかわりで、気になる行

動があった時に、ボランティアや教員としてどう対処していけばよいかについて、意見を交換する場を持った。「暴言を吐いてしまう子がいたとき」「何でも一番でないとすねてしまうとき」「ボランティアをしているのに目の前の活動を嫌そうに

で参加します。 で参加しま際によったいたとき」などまとに、 場面例をもとに、も とのかかわりのあり方等 について意見交流を深め、 充実した研修会を行うこ とができた。 ボラ



ボランティア全体交流会

2【事業の成果】

することができるなど、 一定の成果が見られま した。



子どもの様子を見る 図書ボランティア

3【今後の課題】

・いじめのない社会の実現に向けて、子どもたちを取り巻く学校、家庭、地域の三者の大人が連携し合い、子どもたちを包み込み、守り育てる環境を、さらに、地域コーディネーターが軸となり、教職員、保護者、地域の員・委員とが一緒になって創りあげていけるよう、今後も連絡、調整を図っていくことが必要です。 必要です。

図書ボランティア「お話しベアー」の活動

~絵本の世界を通じて子どもたちの心をはぐくむ~

【湖南市】

【いじめ対応型】

1【事業の概要、特色等】

菩提寺北小学校の図書ボランティ学で イ学で、 大学ではいじめ対応型通いで型ので 大援事業を受けて、絵本の世界を通いを での心をはずいでのは での心をはずいでのお話会」での でのお話会」でのよいでのは 大変がでのながいでのない。 でのでのお話といいでのない。 大変がある。 でのながいたいといいでのないといいででのといいでして、 をでいるがいたいといいでのといいででして、 をでいるがいたいといいででして、 でのはいるといいでのは でのないといいでのない。 でのないといいでのない。 でのないといいでのない。 でのないといいでのない。 でのはいいでのないといいでのない。 でのはいいでのないといい。 でのはいいでのない。 でのないといい。 でのはいいでのない。 でのないといい。 でのはいいでのない。 でのないでのない。 でのないといい。 でのないといい。 でのはいいでのない。 でのないといい。 でのないといい。 でのないといい。 でのない。 でのない。 でのないといい。 でのはいるといい。 でのは、 でのはいい。 でのない。 でいといい。 でいるといい。 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるといるに、 でいるに、 でいる。 でいるに、 でいる。 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいるに、 でいる。 でいるに、 でいるに、 でいる。 でいる。

〈工夫した点〉

低・中・高学年に分けて、子どもたちにわかりやすく、各年代にあった本を選書するようにしている。

① 低学年

「しげちゃん」「おへそのあな」「ぽんたのじどうはんばいき」「3 びきのかわいいオオカミ」「てんごくのおとうちゃん」「おかあちゃんがつくったる」他

☆ 楽しい中にも心に残るお話を選書 紙芝居なども取り入れる



②中学年

「けんかのきもち」「おじいちゃんがおばけになったわけ」「おじいちゃんのごくらくごくらく」「あのときすきになったよ」「あらしのよるに」他

☆ お友だちや、身近な人、大事な人と のかかわりや、思いやりなどを伝え られるお話を選書



【菩提寺北小学校支援地域本部】

③高学年

「はいけいたべちゃうぞ」「ありがとうフォルカー先生」「ウェズレーの国」「オレンジ色のペンギン」「つなみでんでんこはしれ上へ」「わたしはひろがる」「てるちゃんのかお」「8月6日」「まっ黒なおべんとう」「しんちゃんのんしゃ」他



☆中学年に引き続き、高学年も人とのかかわりの大事さや、自己肯定の意識を高められるようなお話を選書

また、6年生は広島への修学旅行の事前知識となるように、戦争関係の本も選書





視聴覚教室でのお話会

④全学年向け 着ぐるみ人形劇 「いつまでもともだち」

☆少しでも子どもたちにわりやすく友だちの大切さを伝えられるように、絵本から飛び出し、お話会に着ぐるみ劇を上演しました。小道具作りから音響、振り付け、照明まで挑戦し、子どもたちの喝采をあびた。







劇中で歌われる「いつまでもともだち」

♪うれしいことがあったときは きみのことをおもいだすよ いっしょにあそんだひのことを いっしょにうたったひのことを とおくにはなれていっても こころはちかくにいるさ きみとぼくはずっといつまでもともだち

もしもなみだがながれたら きみのえがおおもいだすよ いっしょにわらったひのことを いっしょにないたひのことを ときがながれていっても かわらないものもある きみとぼくはずっといつまでもともだち

〈他校の参考となる点〉

「いじめに取り組む」を前面に出さづとも、わかりやすく、楽しみながら、低学年から高学年まで自己肯定=人の気持ちに思いを馳せられる人になれるように、情緒面に働きかける工夫をしている事は、色んな形を変えてアプローチできると思う。

2【事業の成果】

すぐに、目に見える成果はないかもしれないが、子どもたちに繰り返し語りかけていくことで、心がはぐくまれていくと思う。

3【今後の課題】



練習の成果が出て まるでプロの劇団のよう!!!

1【事業の概要、特色】

子どもたちが楽しく学習し、仲良く活動できるように「菩っこを育てる今年に、支援活動を行ってきた。特に今年度は、子どもの居場所つくりとなる学校からの要望(裏山の整備、図書室の改造は、その実現に向けして、その実現に向け働きかけた。

また、寄り添い支援から発展した「家庭教育支援」とも活動を共有しながら、子どもたちのさまざまな問題を解決するサポートに努めている。

〈工夫した点〉

◎子どものつながりは、大人のつながりから



わずかな出て、 で流学はっ。 で流学はっ。 で流学はっ。 で流学はっ。 でになの際に になる際に になるで でにまっ でになる でにな でになる でにな

士のつながりの根幹である。

〈他校の参考となる点〉

◎子どものつながりを深めるたてわり活動



全校児童を 18 のた で 力り班に分け、間を 年交流活動を年いる。 年ででを をおして行ってを をおしてでを でを 地域の方の支援 が低 ただき、6 年生が低

年をサポートする。上学年のやさしさは 毎年下の学年に受け継がれ子どもたち の心を豊かに育てている。

2【事業の成果】

<裏山再生プロジェクト>



裏山の整備と緑化を願い、昨年度から 行っていた事業。5月に親子で植樹作業 を行った。

【菩提寺小学校支援地域本部】

整備された裏山は、自然に触れる学習や遊びの場として大いに活用され、子ども同士のつながりを深め、心の安定が図れる場になっている。

<図書ボランティアによる朗読会>



6年生を対象に音楽朗読劇を行い、人に対してのやさしさ、思いやりを伝えていただいた。子どもたちの素直な感想が うれしかった。





<図書室大改造プロジェクト>

子どもたちがゆっくり過ごせる、そして楽しく使いやすい図書室にしよう!と、学校・家庭・地域が動き出し、ビフォーアフター作業を進めている。

リニューアルした図書室が、子どもたちの新たな居場所になる日が楽しみである。

3【今後の課題】

新規のボランティアグループや保護者の参加など支援の輪が広がり、子どもたちが楽しく、仲良く過ごせる「大好もな学校」づくりに寄与していただいている。反面、まだ本事業の浸透度が低いように思える。

今後も広報やホームページ等で積極的に活動を発信して、地域や保護者のみなさんに子どもたちの良さを知ってもらえるよう努めたい。

【水戸小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

地域における人と人とのつながりの 希薄化や個人主義の浸透などで、地域的 中で子どもが育つ機会、また子どが でなく大人も人として育つ機本校で している。三年目の取組となる本校の 「みとっこ応援団」を中心に、教師、 庭、地域が協働し地域全体で豊かな心を 育む活動を推進している。

また外国籍児童や落ち着いて学習に取り組むことが難しい子どもへの師が必関わりと理解が必要であり、教師がおめたかな対応をする時間を確保る体制をめても、引き続き学校を応援するともに、地域へのわかりやい情報発信と広報活動に努めている。

〈工夫した点〉

①保護者への啓発

PTA 総会でみとっこ応援団の活動を冊子とスライドで紹介。その際「あなたは今日何人の子どもと話をしましたか」「あなたの子どもは家族と先生以外の何人の大人と話をしましたか」と問いかけ、保護者に活動の趣旨を理解してもらい参加を呼びかけた。

②ボランティアのポスター制作

みとっこ応援団ボランティア顔写真入りのポスターを制作し学校玄関とボランティアルームに掲示。子どもたちや教師にも顔と名前が一致し、安心して学校に来ていただいている。



③人権学習の取組

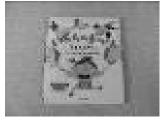
・一年生の授業に滋賀県警察本部より警察官が来校し、パズルを使って相手の立場に立った考え方を学ぶ。「チクチク言葉・ふわふわ言葉」の使い方を知りトラブルを未然に防ぐ。



- ・校内アンケートの実施。子ども・保護者・地域の皆さんを対象に学校教育活動に関するアンケートを実施し、実態把握に努めた。
- ・PTA 親子人権学習会で「人間になったサル」を観劇。コミュニケーションのありかたについて体感できた。

④いのち・人権を考える強化月間

家庭・ボランティアと協力し、11月に実施。登下校時に変わった様子はないか見守りをお願いするとともに、家庭での会話・スキンシップの大切さを広での発信。また、図書ボランティアには、「一発信。また、図書ボランティアには、「テーマを統一した本を選び学年に応じて読み聞かせを行った。





〈他校の参考となる点〉

・ボランティアルームの開放

今年度と来年度は校舎の改修工事があるため、三階にあった図書室を一階のボランティアルームに移した。小さいスペースだが教室のすぐ隣ということもあり、中休み・昼休みはたくさんの子どもたちで賑わっている。

地域の皆さんやボランティアには、この部屋を定期的に開放している。毎月第一金曜日を【一金(イチキン)】の日とし、ボランティアとコーディネーターとの調整をしたり、ボランティア同士の交流や子どもたちとのふれあいの場に活用したりしている。

回を重ねるごとに、定期的に顔を合わせることが当たり前の関係ができつつある。









・教師とボランティアの交流会の開催 (8月 26 日)

市内で活動する「ちっちゃなかぜ」さんを講師に、絵本を通じて育むとボランにて研修を行った。教師とボランティアが意見交流をし、子どもたちと、ティのことについて理解を深めることが、今後一層スムーズになると感じる機会となった。

・子育ち・親育ち研修会の開催

(2月17日)

市内在住の児童文学者・詩人の野呂昶氏の講演会を計画している。PTAや地域の方を対象に、地域の歴史や教えを学び、一人ひとりが幸せや安心を育るしたいら、誇りをもって生きる力を育いるとができるよう、思いやりの心と考えて機会としたいと考えている。

2【事業の成果】

・ボランティアルームの開放

非常勤職員である図書館協力ともには、ボランティアがおとなくにのままで、生以外のおとなくになりになる。先生以外のである。生生のではない。 葉を交わし、顔見知りにな表情をしてるできる。また、本を話題におってができる。またしてやってがある。また、本をもあれている。常連の子どもたちも増えている。

・教師とボランティアの交流会

それぞれの仕事や役割はわかっていても、抱いている思いまではわかり合えていない。忙しい日常の中で伝え合えていない部分を話し合うことで、互いの関係が深まり、その後の活動がスムーズに進むようになってきている。年に一度は開催したい会合だと改めて感じた。

・子育ち・親育ち研修会の開催

今回の講演をしていただくに先だって、野呂先生には「新しい町、新しい文化」(仮題)という子ども向けの郷土資料を執筆していただいた。50年前に湖南工業団地が開発され、昭和52年に誕



3【今後の課題】

今年度いじめ対応型として取り組とで取り域にでいた。 をまとめ、教師・なの庭年少しいとののではのです。 をまといかしてでするが、ボランティッがあるではが、ボランティッがある反けとしてのがあるではある。ボランティアがある反けとしてない。 ではが、あるが、あるではのです。 ではめいではあるではないではないです。 ではが、ボランティッがののではないではないではないではないでではないでではないでではないがのといる。 をささいきたい。

また、今後はまちづくり協議会などの地域の団体との連携や、小・中連携に取り組むこと、ボランティアによる自主的運営体制を整えていくこと等が課題である。

支援の必要な子どもたちと共に活動する学校支援 【湖南市】

【いじめ対応型】

【石部南小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

○不登校傾向にある子どもと、地域ボランティアが一緒に体育大会での全体演技「南っ子ソーラン」のハッピを制作する。多世代の交流は、支援の必要な子どもたちの居場所づくりとなっている。

○教職員と地域ボランティアが一堂にいじめについての研修会を行う。学校や地域で子どもの実態を共通理解する。

〈工夫した点〉

- ○ハッピ作りの作業がスムーズに進むように、子どもにどんな作業をさせるのかを事前に打合せをした。
- ○ボランティア活動中に知り得た情報は、口外しないように伝えた。
- ○研修会は、ボランティアの方が集まる サークル活動の後に設定して、参加しや すいようにした。

〈他校の参考となる点〉

学校ボランティアと保護者ボランティア、子どもたちが一緒に作業を行う事で三世代の交流をすることができた。

核家族の多い地域のため、家に高齢者がいない家庭が多い。年齢層の広いボランティアさんと接する事により、子どもたちと自然で楽しい会話をしながら作業ができた。

地域ボランティアは、奉仕するだけではなく、子どものために役立っていることを確認する事ができた。



ハッピ作りの様子

2【事業の成果】

- ・体育大会で自分が着用するハッピを作ることにより、体育大会に参加する意欲が増した。
- ・学校に登校しにくい子どもたちが、ハッピ作りをするという目的を持って活動し、最後まで仕上げることができたので自信を持つことができた。

- ・ボランティアの方は、自分が得意なミシンの使い方などを子どもに教え、作業中はお互いに笑顔となり、やりがいを感じてもらえた。
- ・子どもは、自分のハッピを作るだけではなく、友達のハッピ作りも行った。自分自身もボランティアをするという体験になった。
- ・地域の方とふれあう事により、コミュニケーションをとることに対して、抵抗 感が少なくなった。



ボランティア研修会の様子

- ・ボランティア研修会では、先生方と地域ボランティアが一堂にいじめについて話を聞いた。ボランティア同士の情報交換や意見交流を行い、学校と地域のそれぞれの子どもの姿を把握することができた。
- ・地域ボランティアに学校での子どもの 現状を知ってもらうことにより、子ども を見る目が増えて細かな目配りができ るようになった。

- ・ハッピ作りの際、子どもが困っていたち、ボランティアの方が代わりに作るとがある。子どもが大切しまわれることがある。子どとが大せで責任を持って仕上げることが大なで、ボランティアの方の意識改革必要。・地域ボランティアの方に個人情報保護についての研修会を行い、ボランティアの方にも学校職員と同様に、個人情報を守る意識を高めてもらう。
- ・いじめについてのボランティア研修会を充実させ、子どもの心理を理解して適切な対応ができるようにする必要がある。子どもの心理について知識を得ることが必要。

【石部小学校支援地域本部】

1【事業の概要、特色】

「学校」「家庭」「地域」の大人たちが連携し合って、子どもたちを包み、いじめから子供を守る「環境」をつくりあげることが大切だと考え、次のような取組を行った。

◆咲かせよう命の花プロジェクト

運営委員がふれあいタイムの時間に「人権の花」サルビアを育てることで、一年間、命のつながりを感じながら、命の大切さについて考えようという思いのもと、企画した。

のもと、企画した。 そして、交流を続けている東日本大震 災の被災地である原町第一小学校の仲間に、「みんなで育てた命(収穫した種) を、メッセージとともに届けよう。」と 活動がスタートした。





・児童会の縦割り活動として、サルビアを植えるプランターに楽しく絵を描くことにした。低学年の子が描く横で、高学年の子が寄り添い、アドバイスし楽しい雰囲気で行えた。

・人権擁護委員の方と協力しながら、種まきをした。こどもたちに一つの種でも、愛情を注ぎ大切に育てれば、そこからたくさんの新たな種を得ることができることを話してくださった。植えた後

はせたをにタれを、るくつ、イ(続れ、さくふムれでやた、はんなれでやたいのたあ手り。かて種めい入)



・ふれあいタイムの時間に色別に分かれサルビアの種を収穫した。小さな花の中に4つの種を見つけたこどもたちは、とても嬉しそうだった。

収穫した種は、 メッセージと共 に原町第一小学 校へ届ける予定 だ。



◆「いじめ防止啓発チラシ」の配布



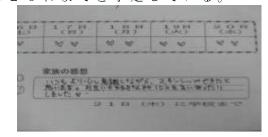
いじめに対する質問では、「いじめはいけない」とすべての児童が答えている中、支援地域本部では、いじめに気がつかなかったということがないよう、早期発見の機会になればと、悩み相談室を設けた。

このチラシをきっかけに、いじめ防止が家庭での話題のひとつになればよいと考える。

◆すきすき週間

バレンタインデーからの一週間を「すきすき週間」とし、保護者に向けて、子どもとスキンシップをはかり、会話をしてもらうようはたらきかける活動をしている。

3回目となる今年度も、2月14日から20日までを予定している。



◆ありがとう わが学舎 石部小学校



校5ちに替れな 支部壊のシ伝舎9、伴えるっそ援でさ現ン統も年老いがこたこ地はれ校ボあ築が朽建行と。で域取る舎ルる後経化てわに 、本り前をに

して、「石部小学校の過去~現在~未来」をテーマに式典を開催し、子どもたちと地域の絆がさらに深まればと考えた。

この取組では、ここで学んだ方々が大勢校舎に集まられ、元町長や地域住民の代表の方に石部小学校の歴史や建てられた時の思いなどをお話いただいた。

卒業生、市内在住者、市内の企業等多くの方が参加され、地域のつながりを深め、地域づくりとすることができた。



とした。85名の子が参加を希望し、高学年がリーダーとなり、9グループに分かれ話し合い、模擬店内容を決定した。 夏休み期間中や、運動会行事等により、 昼休みの話し合いの時間がとれない時 はリーダーが家庭で作品作りをしたり、



前フたた模功とだ日ルりち擬さ取。日ルりち擬さ取。の店せりの店がある。

当日は、「石小こども隊」として模擬店活動をする子、石部歴史秘話の劇を見たり、校歌の由来のお話などを聞く式典に参加する子など、教職員協力のもとに、全校生徒がこの取組に関わって石部

小学校の歴史や地域の人々の思いを体感した。



2【事業の成果】

- ・自分たちで育てたサルビアが花を咲かせ、その種を収穫し、福島県南相馬市立原町第一小学校へ送ることをとおして、「命をつなぐ」取組ができた。
- ・「学校の敷居は高い。」と思われがちな今日、『ありがとうわが学舎』では多くの方が参加してくださり、大人も子どもも一体となって楽しむことができた。
- ・地域の方の「石部小学校」への愛情、 懐かしい思いが子どもたちに伝わり、子 どもたち自身も母校に愛着を持ち、学ん でいかなければならないことの大切さ を理解したと考える。
- ・校舎見学は、「石部小学校学校応援団」 の活動を知っていただくよき機会とな った。

3【今後の課題】

・地域の大人が子どもに関わることも、 家庭でのコミュニケーションも習慣と なることが大切である。今後は、子ども たちの活動をより多く具体的に家庭や 地域に発信し、地域での子ども理解を深 めるとともに家庭でのコミュニケーションを深めるきっかけづくりをしたい。